

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



ゆりぐみさん、きくぐみさん、
修了おめでとう！

これは今、私の中にあるみなさんの印象です。

みなさんは、一人一人、実に個性のはっきりした子どもたちです。それぞれに「持ち味」が違うといえますか、「世界に一つだけの花」という曲を人（子ども）に置き換えたらこうなるだろうな・・・というような。だから、とても面白く、将来を楽しみに思えるような子どもたちでした。これからの世の中は、複雑で困難な局面にも、人間臭さとオリジナリティをもって対処できる人が必要です。ロボットには真似できない力を前面に出していくのです。

附属幼稚園は、そんな「将来楽しみ！」な子どもたちを育ててきました。そしてみなさんはこれほどまでに个性的に成長してくれました。きっと小学校に行っても、その持ち味を発揮して、私たちの想像と期待を、悠々と超えてくれるだろうと思います。私たちは、これからもずっとみなさんの背中を見守り応援しています。修了おめでとう！

最近のスナップより



学校評価報告 ダイジェスト版

二学期末にご協力頂いた「保護者アンケート」や、「職員の自己評価」、学校評議員会等を踏まえて、一年間の園経営全般について総括を進めています。細部については今後詰めていきますが、保護者のアンケート結果について、概略をお知らせします。

今年度は、アンケートの様式を全面改定しました。全項目で平均評価点を3を超えています。しかし、現状に甘んじることなく更なる充実を目指すという意味において、相対的に低い項目に着目したいと思っております。（詳細は裏面）

園に対しては「子ども理解力」を高め、個に応じた保育への更なる期待と、「心豊かなやさしい子ども」育成に一層の努力をして欲しいという保護者の願いが読み取れました。



また、子どもの身辺自立や生活習慣の確立に関するいくつかの項目は、アンケート全体の中で低くなっています。これは、「我が子は充分ではない」と自己に厳しく評価された結果だと解釈する事もでき、決して悪いことではありませんが、園としても、保育の中で押さえるべき礼儀やマナーの指導について、家庭任せにするのではなく、同じ意識と同じ姿勢で取り組むべき事と捉えました。

そして、附属幼稚園の存在意義を問う項目は「4」を指さねばなりません。更に保護者への説明を積み重ね、危機感を共有して頂く必要があります。さらには、低評価の理由や根拠に関する記述内容について、園で改善できる点と、保護者の方にご努力頂かねばならない点とがありました。今後、内容を精査・吟味し、改善できる点については来年度に生かしていきます。

附属幼稚園は、これから益々厳しい現実に直面することが予想されます。年長児の保護者の皆様、これまで誠に有り難うございました。年中・年少児の保護者の皆様、来年度もお願ひいたします。

宜しくお願ひいたします。